

禍を乗り越えて

次の日常へ歩み出そう

当たり前の光景が一変した
目に見えない脅威

おとし1月。国内で初めて新型コロナウイルスの感染者が確認されて以降、感染の拡大とともに私たちの生活が受ける影響も大きくなっていきました。

同年4月には緊急事態宣言の発令に伴い、外出自粛が要請されました。飲食店をはじめとする多くの店舗は休業を余儀なくされ、小中高校は臨時休校する事態に。いつもは多くの人でにぎわう成田山表参道や成田駅前も閑散としていました。

緊急事態宣言が解除されてからも、成田祇園祭などの市内の代表的な行事の開催が見送られるなど、我慢を強いられる生活が続きました。

対策を取り入れて
にぎわいが戻る

昨年4月からは、発症や重症化、後遺症のリスクを減らすことができるワ



①緊急事態宣言下の成田山表参道



②心を込めてマスクを作る

新型コロナウイルス感染症を中心に振り返る

▶ 2020年

- 1月 国内で初めての感染者が確認される
小中高校が臨時休校に
- 3月 外国人の入国制限が開始される
国際医療福祉大学成田病院が開院
緊急事態宣言の発令に伴い、外出自粛などが要請される①
- 4月 マスク不足が深刻になり「広報なりた」でも簡易マスクの作り方を案内②
- 11月 成田空港にPCRセンターが設置される

▶ 2021年

- 1月 正月の分散参詣が行われる
- 2月 ワクチンの国内第1便が成田空港に到着
- 4月 高齢者へのワクチン接種が開始される
- 7・8月 東京オリンピックで本市出身の橋本大輝選手、並木月海選手が活躍
はしもとだいき なみつきみ
- 8月 東京パラリンピックに出場するアイルランドチームが市内で事前キャンプを実施③

▶ 2022年

- 7月 成田祇園祭が3年ぶりに開催される④
- 10月 外国人の入国者数の上限撤廃など制限が大幅に緩和される



③事前キャンプを行う出場選手が到着



④活気が戻った成田祇園祭



待ち望んだ空の旅へ

目に見えないものに生活が脅かされる中でも、それを乗り越えようと地域のために、そして日本のために懸命に取り組む人たちがいます。

今回の特集では、市内で業務にあたる人たちの姿を通して、私たちがこの困難をどのように乗り越えてきたのかを振り返り、これから向かう次の日常を考えます。

そして次の日常へ

そして現在、外国人に対する入国制限の大幅な緩和や国内旅行の支援の拡充など、新型コロナウイルス感染症への備えと経済活動との両立を目指す、次の日常が動き出しています。

今年に入ると、成田太鼓祭や成田祇園祭が3年ぶりに開催されるなど、徐々に以前のようなにぎわいが見られるようになりました。

クチン接種が開始されました。なるべく多くの人が早期に接種できるように、行政や医療機関、大規模施設などが協力して体制が整えられました。

また、まちの光景も変わっていきました。施設の入り口には消毒液と検温器を設置し、道行く人たちはマスクを着用。公共交通機関では窓を開けて換気をして、店舗のレジには足元に間隔を空けるためのマークを表示するなど、生活に少しずつ工夫を取り入れて対応してきました。

安心できる生活まであと少し

新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、私たちの生活は今後どのように変化していくのか。感染症学を専門としている松本哲哉さんに、今後の見通しについて話を聞きました。(取材日：9月15日時点の情報で掲載しています)

大切なのはマスクと換気

変異株の発生や家庭内感染の広まりなど状況は変化していますが、感染対策としてはマスクの着用と換気が変わらず大切です。飛沫感染^{ひまつ}に対してはマスクの着用、マスクだけでは防げないエアロゾル感染に対しては換気が効果的です。

さらに、帰宅した際や食事前などの適切なタイミングで、手指消毒をするとうまいでしょう。

後遺症のリスクも考えてワクチン接種を

ワクチン接種は感染を予防するだけでなく、感染してしまった場合の重症化と後遺症のリスクを軽減できます。

若者にとって後遺症は深刻な問題です。日常生活にも支障が出て、仕事や学業が続けられなくなることもあります。現在は若者の接種率が低い状況ですが、後遺症に備

えるためだけでなく、家庭内などではほかの人に広めないためにも、接種を検討していただきたいです。

観光・レジャーを楽しむためには

人が集まる場所では感染するリスクが高いことを理解し、事前に心構えと準備をしておくことが重要です。

旅行中に感染が判明した場合、宿泊先に滞在を続けられなくなる可能性があります。帰宅しようとしても公共交通機関が使えない上、感染症の拡大状況によっては医療機関を受診できないこともあります。そういった大変な思いをする場合があることを理解しておきましょう。

また、可能であれば事前にPCR検査や抗原検査を受けてもらいたいです。現在は検査キットも市販されています。事前に万全な健康状態であることを確認した上で、旅先でも基本的な感染対策を徹底していた

だきたいと思います。

多くの人が集まる

成田で取るべき対策は

成田には成田空港や成田山新勝寺などの多くの人が集まる場所があるため、感染リスクが高い状況はまだ続くと思います。だからといって、新しいことをする必要はなく、今までやってきた感染対策をそのまま徹底して行うことが大切です。

今年の冬は要注意

今一番大事なのは、今年の冬をどう乗り越えるかです。この冬は新型コロナウイルス感染症だけでなく、インフルエンザの流行にも注意する必要があります。また、風邪の患者なども増えるでしょう。

熱を出して体調を崩す人が多くなり、医療機関の予約がいっぱいで受診できない、薬も出してもらえないという状況になるかもしれません。もちろん病院も大変ですが

国際医療福祉大学成田病院
感染制御部 部長

まつもと てつや
松本 哲哉さん

長崎大学医学部卒。医学博士。平成30年から国際医療福祉大学医学部感染症学主任教授を務めるとともに、令和2年から同大学成田病院で感染制御部部長として第一線で活躍。多数のメディアで新型コロナウイルス感染症について解説している。





イベント会場ではルールに従って



旅の前には準備をしっかりと

コロナ禍で早めた開院

逼迫した国内の医療体制を踏まえ、予定を繰り上げて令和2年3月に開院した当時は困難の連続でした。

多くのスタッフが初対面の上、院内のルールがほとんどできていない状態で新型コロナウイルス感染症の対応が始まりました。連日のミーティングでは、その日に直面した課題を話し合い、その都度、解決方法を模索してきました。外来と並行して入院も受け入れるなど、慌ただしく対応していました。

大学病院として、地域で期待される役割に早く応えたいという思いが強かったです。大変な時期を乗り越えてきたことで、地域の皆さんに受け入れていただける病院になりつつあると感じています。



地域に根付く国際医療福祉大学成田病院

今後の見通しは

今後、新型コロナウイルス感染症については、インフルエンザに近い扱いにできるようなしていくべきだと考えます。

インフルエンザは基本的に、どの病院でも受診できます。しかし、新型コロナウイルス感染症となると、発熱外来を設置している一部の医療機関でしか受診できません。またインフルエンザのように、ウイルスを減らす薬を誰もがもらえるわけではありません。検査をして陽性の場合でも、重症

化リスクがある人にしか薬を渡せないのが現状です。

さらに、費用負担の問題もあります。現在は検査や診療、薬の費用などを国費で賄っていますが、インフルエンザと同じ扱いとなると、自己負担が発生します。高額だから薬はやめておく、という人が出てきてしまう可能性があります。

こうした障壁をクリアして、新型コロナウイルス感染症が生活に与える影響を減らしていく必要があるでしょう。

ワクチンについても、今後もっと長期間有効なものが出てきて、年1回程度の接種になると見込んでいます。

収束まであと一歩 希望を持って生活を

私たちは何度も苦しい状況乗り越え、

現在はコロナ禍の収束まであと一歩のところまで来ています。ワクチン接種で感染を予防できるようになったほか、市販のキットで手軽に検査できるようになりました。感染症に立ち向かうという意味では、手段がなかった最初の頃に比べれば、非常に幅広い方法で対応できるようになっています。油断はできませんが、医療現場も落ち着いて対応できるようになっているので、そういう面から見ても社会もだんだんと落ち着いていくのは間違いないと思います。

コロナ禍がいつ収束するか分からない状況で、気持ちが滅入っている人もいると思いますが、このままの状況がずっと長く続くわけではありません。この冬を乗り越えれば、かなり良い方向に向かうと考えています。あともう少しだという希望を持って生活してもらいたいと思います。

INTERNATIONAL UNIVERSITY OF HEALTH AND WELFARE
NARITA HOSPITAL



第2章

みんなの努力が明日をつくる

本章では、困難の中でも自分の役割を全うして、それぞれの立場で活躍する人たちを紹介します。



地域と共に 途切れないつながりを

成田の観光の要である成田山新勝寺と表参道。まちのにぎわいが失われていく中でも、人とのつながりを絶やさず、人と向き合う時間を大切にしようとする姿がありました。

どんな時でも支えの場所に

成田山新勝寺は平安時代から続く由緒ある寺院で、年間1、000万人以上の参詣客が訪れます。

減少していた参詣客も今年に入り徐々に増え、境内ににぎわいが戻ってきました。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大以降、多く目にするのは疫病退散の願い。皆さんの不安な思いを強く感じ、これまで以上に人々の心に寄り添う役割が求められていると再認識しました。

外出自粛が要請されていたころは、



参詣客でにぎわう成田山新勝寺



災難よけのお守りが並ぶ



大本山成田山新勝寺
企画課
なかみね しょうき
中峰 照希さん

全国の寺院で門を閉めるか否かの葛藤がありました。しかし、門を閉めてしまうと、皆さんの願いや不安な思いを受け止める寺院の役割が果たせません。世の中が大変な状況だからこそ、変わらずに開かれているべきだと思っています。

今は悪い状況でも、良い方向に向かう時が必ず来ます。私たちも引き続き、どんな時でも皆さんを支える場所となるように、今できることを精一杯取り組んでいきます。

成田を最大限楽しんでもらうために

成田観光館は成田山表参道沿いに位置し、観光客に成田の見どころなどを紹介しています。

コロナ禍では、表参道を訪れる観光客が激減し、私自身もお客さんと接する機会が例年の1割程度まで減少したように感じました。飲食店ではテイクアウトなどを始め、工夫して営業を続けるところも多くありました。今年は成田太鼓祭や成田祇園祭が3年ぶりに開催。にぎわう表参道を見た時は、日常が戻ってきたことを実感できました。

とを実感できました。

印象的だったのは、成田太鼓祭に参加した高校3年生の話。「演奏の場がなかった2年間。この祭りで披露することを目標にしてきました」。コロナ禍だからこそ強まった思いを知り、表参道で開催される祭りが待ち望まれていることを強く感じました。

私たちの役割は観光に訪れた人をサポートすること。今後も、成田でたくさんの方の思い出をつくってもらえるよう、元気にお出迎えしたいです。



成田伝統芸能まつりでお客さんを案内



参加者への検温を徹底



成田観光館
やました ともひろ
山下 智広さん

新型コロナウイルス感染症の影響を強く受け、旅客数がかつてないほどに減少した成田空港。そのような未曾有の事態でも、使命感を持って各分野で奮闘する人たちがいました。

空港の安心・安全のために

空港は航空機を離着陸させ、人や物の移動を支えるのが役割です。私たちの部署はその役割を安定的に果たせるように、日頃から空港の管理者として、関係機関と共に有事への備えをしてきました。

そして、新型コロナウイルス感染症の発生により、まさしく災害対応の日々が続きました。特に重要だったのが水際対策の強化。検疫所の担当者と毎日顔を合わせ、必要な検疫手続きが空港で実施できるように調

整を重ねました。元々は出発エリアとして使用していた場所を検疫手続きの待機場所に転用するなど、新型コロナウイルス感染症に対応しながら、空港としての機能を維持できるように力を尽くしています。

最近では、水際対策が緩和されたこともあって、空港にも少しずつ活気が戻ってきています。世界中のお客さんに安心・安全に利用してもらえよう、今後も引き続き関係機関と力を合わせていきます。



地図を使って災害訓練



ターミナル内にポスターを掲示



成田国際空港(株)
オペレーションセンター
担当部長 萩原 裕一さん(左)
危機管理グループ 芳賀 慶太さん(右)

私がこの仕事に就いたきっかけは父親の海外赴任でした。空港での手続きをたどっていく父の姿を見て「旅に不慣れな人の力になりたい」と思いました。そして現在、国際線のチェックインカウンターなどで旅に出るお客さんのサポートをしています。

コロナ禍では、各国で入国時に必要な書類が増えました。そのため旅に不慣れな人だけでなく、旅に慣れている人でも書類審査などに不安を抱えていることが多くなった印象があります。手続きで待たせってしまう時間も長くなったので、以前にも増して丁寧に声掛けすることを意識して、少しでも不安を軽くできるように工夫しています。

最近では、空港にお客さんがかなり戻ってきました。業務量も一気に増えています。それよりも喜びの方がはるかに大きく感じています。社員みんなが助け合っていて、お客さんの力になれるよう今後も業務に励んでいきます。

旅に不慣れな人の力になりたい



チェックインカウンターへ案内



笑顔でお客さんをサポート



ANA成田エアポートサービス(株)
旅客サービス部
国際線担当
三宮 綾美さん

それぞれの立場で 自分の使命を果たすため

水際対策の最前線で

国内にない感染症の侵入を防ぎ、皆さんの健康と命を守ることが私たち検査所の使命です。

コロナ禍の検査手続きでは、症状がない人に対しても検査や聞き取りを行うなど、さまざまな手順が増えました。入国する人にとっても負担が増したので、航空機が到着してから検査手続きが始まるまでに、提出が必要な書類の呼び掛けや動線の誘導をしてスムーズな案内に努めています。

また、入国前にスマートフォンなどで書類を登録すると、空港での手続きが大幅に短縮できる「ファストトラック」の導入など、新しい取り組みも行っています。

入国する人にとって、私たちの仕事は面倒に思われることかもしれませんが、しかし、それも国民の皆さんを守るため。私たちの存在が意識されない社会が平穏で良い世の中だと思っているので、そういった社会に早く戻るように、地道に使命を全うしていきます。



健康状態を丁寧に聞き取り



陰圧室の先にある診察室



成田空港検疫所
検疫第二課 課長
だて かな子 さん
館 香奈子 さん

お客さんの笑顔が元氣のもと

成田空港から車で約15分。自社農園と隣り合う当店は、令和2年3月にオープンしました。しかし、翌月には緊急事態宣言が発令され、休業を余儀なくされました。

再オープン後もアルコール類の提供の停止要請などにより、想定していた営業スタイルは変更が必要に。また、アルコール類が喜ばれる大人数でのパーティーなどから、少人数での利用が中心になりました。そこで、私たちが力を入れたのが

ノンアルコールカクテルの開発。通年提供するものだけでなく、期間限定のメニューも取り入れています。車で来店するお客さんも多いので、とても好評です。

この仕事の一番のやりがいには、お客さんの「おいしかった」という笑顔が見られること。その笑顔に私自身も元気をもらえるので、いつ来ても楽しく食事をしてもらえるように、季節や行事に合わせたメニューをそろえて、おもてなししていきます。



マスク越しでも伝わる笑顔で



古民家をリノベーションした店内



JAL Agriport(株)
DINING PORT 御料鶴
ホールマネージャー
わたなべ げん
渡邊 元 さん

新しい形でにぎわいが戻る



年間を通して数多くの祭りやイベントが開催され、そのにぎわいが日常の一部となっていた成田。本章では、依然として感染症への慎重な対応が求められる中でも、工夫を取り入れて開催された「成田伝統芸能まつり秋の陣」と「ジェット機との綱引き大会」を紹介します。

成田伝統芸能まつり秋の陣

3年ぶりに全国の祭りが成田に集まる

市内では、今年4月に開催された成田太鼓祭を皮切りに、5月には成田伝統芸能まつり春の陣、7月には成田祇園祭と、コロナ禍での開催自粛を乗り越えて行われた祭りやイベントが続きました。

そして9月17日・18日の2日間、「成田伝統芸能まつり秋の陣」が3年ぶりに開催されました。

万全の感染対策を行って

この祭りの特長は、日本全国から伝統芸能団体が集まること。北は秋田県・岩手県から、南は熊本県まで。遠方からの移動を伴うため、感染のリスクも高まります。

そこで力を入れたのが、参加団体の感

染対策。参加団体には開催前の一定期間、健康チェックシートの提出が依頼されたほか、当日は控室が個別に用意されました。また、出演前後に体調不良の人が出た場合の対応方法を事前に検討しておくなど、万全の態勢で参加団体を迎えました。

さらに、当日のステージ運営でも感染対策を徹底。各ステージでは、公演ごとに観客を入れ替え、その都度、座席の消毒が行われたほか、観客の入場時には検温と手指消毒が徹底されました。

約10万人が訪れる

こうして開催された祭りの来場者数は、2日間で約10万人。観客からだけでなく、満員の客席を前に演技をした参加団体からも「開催してもらえて良かった」と喜びの声が聞こえるイベントとなりました。

来場者 インタビュー

全国の祭りが楽しめる



ひろせ りゅうと
広瀬 隆翔さん

この盛り上がりを久しぶりに見られて楽しかったです。成田にしながら日本全国の祭りの迫力を肌で感じられるのが、この祭りの醍醐味だと思います。

祭りは歓声があってこそ魅力が最大限に引き出されると思うので、早く制限がない状態に戻ってほしいです。

成田だからこそ経験



わたなべ かすみ
渡辺 香澄さん
えいすけ
瑛介くん

夫が祭りで山車を曳く姿を見ることができて、とてもうれしかったです。成田は祭りが盛んなので、にぎわっている様子を見てみると、このまちに生まれて良かったなと思います。

早く何も気にせずに祭りが楽しめるようになってほしいです。

コロナ禍前の元気を実感



たけうち あけみ
武内 明美さん

この祭りは独特の雰囲気、成田祇園祭とは違ったにぎわいがあると思います。そのにぎわいを見て、コロナ禍前の元気が戻ってきていることを実感できました。これから外国人観光客も増えてくると思うので、感染対策も徹底しつつ祭りも元気に開催してほしいです。



入場時には検温と手指消毒を



観客を入れ替える時は椅子の消毒も



全員がマスクを着用して観覧



秋田竿燈まつりの迫力の演技

担当者の思い

関わる人全員の安心のため



成田市
観光プロモーション課
いけだ かずあき
池田 和朗さん



会場で観客を誘導

コロナ禍で観光や経済活動が落ち込むまちを盛り上げようと、このイベントを開催しました。無事に開催できるか大きな不安がありましたが、観客はもちろん、参加団体や職員なども含めて、関わる人全員が安心して参加できるように準備を重ねてきました。当日は、ステージを観覧して喜んでいる観客や晴れやかな表情で踊る出演者の姿を見ることができて、とてもうれしかったです。

私たちは引き続き、皆さんに安心して訪れてもらえる祭りの形を考えながら、今後の準備をしていきたいです。



ジェット機との綱引き大会

親子130人で約100トンの機体に挑む

参加者 インタビュー

大きなジェット機は 迫力満点

てらしま か のん
寺嶋 夏音さん



近くで見るジェット機は予想以上に大きかったです。手が痛くなるほど重かったけど、みんなで力を合わせて引っ張ることができて、とても良い思い出になりました。

9月25日、ジェット機を間近で見て、空港に親しみを持ってもらおうと「ジェット機との綱引き大会」が3年ぶりに開催されました。普段は入れない成田空港の駐機場で、ジェット機と同じ地面に立って綱引きができるため、その大きさや重さを実感できる人気のイベントです。

参加した小学生と保護者、合わせて130人が挑んだのは約100トンの機体「ボーイング767-300ER」。全員で力を合わせて18メートルを動かしました。掛け声を控えるなどの感染対策を取りながらの開催でしたが、参加者からはマスク越しに笑顔があふれ、成田空港を安心・安全に利用してもらおうきっかけとなるイベントになりました。

担当者の思い

再スタートする私たちの空港

このイベントの準備は今年の4月から始まりました。コロナ禍で日々状況が変化する中、多くの人に再スタートする成田空港を見てもらいたいという思いで準備を重ねてきました。

当日は、参加してもらったたくさんの人たちが、笑顔で楽しんでいる様子を見ることができました。「良い思い出になった。ありがとう」と温かい言葉を掛けてもらえた時は本当にうれしかったです。

今後も、空港に親しみを持ってもらえるイベントを開催していきたいと思います。

成田国際空港(株)
総務人事部
総務グループ
かわはま たつ や
川濱 達也さん





特集の終わりに

仲の良い友達と会って、たわいもない話で盛り上がる。家族と一緒に旅行をする。新型コロナウイルス感染症の影響によって、そのようなありふれた光景にも大きな変化が生じました。

この3年近くの間、緊急事態宣言をはじめとする国による行動制限などが幾度も行われ、我慢を強いられる生活が続きました。

しかし、そのような中でも私たちは笑顔を忘れずに、一人一人が基本的な感染対策を地道に行ってきた。

そして今、そうした根気強い積み重ねによって、少しずつ生活が変わってきています。第1章の国際医療福祉大学成田病院の松本先生の言葉にもあったように「収束まであと一歩」です。

新型コロナウイルス感染症への備えと経済活動の両立を目指す社会が加速しようとしています。一人一人ができることを引き続き行って、これから迎える次の日常へ歩み出しましょう。